活力ある秋田 Vol.132

天気を通して県内外から見た秋田の強み

［秋田市観光クチコミ大使］
株式会社ウェザーマップ　気象予報士
元NHK秋田放送局気象キャスター
村木祐輔（むらき ゆうすけ）氏

「あれ？秋田ってこんなに元気だったっけ？」2016年4月、NHK秋田放送局の気象キャスターになり、8年ぶりに本格的に秋田に戻ったときの率直な感想でした。

秋田で生まれ、大学まで秋田で過ごした当時の私にとって、秋田はいわゆる田舎。街に活気もなく、刺激もない。嫌いではなかったものの、特に強い想い入れもなく、大学卒業後は当然のように関東に出ていきました。

ただ、外に出て初めて秋田の人の温かさ、自然の豊かさに気づき、秋田への想いが湧いてくるように。なんらかの形で秋田に恩返ししたい、秋田を元気にしたいという気持ちになるのにあまり時間がかかりませんでした。

天気予報においての秋田県は、「東北北部」にまとめられるマイナーな地。大雪などにならない限り話題になりません。ただ、秋田は3方向が山・1方向が海という全国的にも珍しい地形のため、本来は非常に複雑な天気。一口に雪国といえども、雪がどっさり積もる大雪タイプの内陸と、毎日のように暴風雪警報が発表される吹雪タイプの沿岸。風向きの微妙な違いで大雪エリアがガラッと変わるのも特徴です。秋田の天気を熱意をもって伝えるには、ローカルの天気予報しかないと感じます。

そんな秋田への想いが強くなっていた時に、今の会社ウェザーマップの上司から「秋田で気象キャスターの募集が出るよ」という話がきました。当時、東京で気象キャスターをしていたので、それを捨ててまで秋田に行くことは、周りの人にとっては理解しがたかったかもしれません。それでも自分の中に迷いはありませんでした。

そして始まった秋田生活。その時に感じたのが冒頭の感想です。ロケでは快く取材に応じてくれて、電車や旅行先では気軽に声をかけてくれる視聴者の皆さん。さらに驚いたのは、番組に寄せられる天気の質問の多さ。ただ、よく考えたらこれは当然のこと。秋田は農業県なので、老若男女問わず天気予報の需要が高いのも納得です。

2017年の雄物川の氾濫。秋田県民ならまだ記憶に新しいと思います。正直、あの規模の氾濫なら人的被害が出てしまうレベル。天気に関心のある県民だからこそ情報に耳を傾け、事前の避難等で被害を最小限にとどめられたのだと思います。また、地域の強いつながりも一役買ったのでしょう。隣にどんな人が住んでいるのかもわからない都会ではこういったコミュニティを作ることは不可能です。ここに秋田の強みを感じました。

これから秋田をPRするうえで生かすべきは、人の温かさと結束力。普段は物静かでも、内に秘めた熱い思いを県外に発信できる方法を探っていくべきだと感じます。秋田はマイナーでも秋田にしかないものがたくさんあります。気温差が大きい秋田が誇る美しい紅葉や雪かき体験も立派な観光資源。特産物を作るでも、フルマラソン大会を開催するでもいいんです。要は、どうやってアピールするかだと思います。

秋田で過ごした3年間。実は逆に県民から元気をもらった3年間でした。月並みではありますが、今後も秋田の発展を期待しつつ、私自身は今度こそ秋田に本当の恩返しができることを東京にいながら探していきます。秋田のために協力できることがあればいつでもご連絡ください。

■略歴

1985年	秋田市生まれ
2008年	秋田大学 教育文化学部 卒業
同　年	株式会社ウェザーニューズ 入社(2011年退社)
2013年	株式会社ウェザーマップ 所属契約
2014年	テレビ東京「NEWSアンサー」 気象キャスター 就任
2016年	NHK秋田「ニュースこまち」 気象キャスター 就任
2019年	TBS「ひるおび!」 気象キャスター木曜日担当

現在に至る

秋田市観光クチコミ大使 … 秋田市に縁のある経済人や転勤等で過去に秋田市に在住経験のある方々に、身近な人々へのクチコミやインターネットでの情報発信を通じて、秋田市の観光PRにご協力いただくため委嘱している。